

教科	美術科	学年	第3学年	担当者	水上 雅代
----	-----	----	------	-----	-------

【教科目標】

- 1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を育てる。
- 3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- 4 主体的に考え、考えを作品にするために必要な情報を集める力をつける。集めた資料を工夫して利用したり、学んだ技術を自分なりに活用する力をつける。

【使用教科書・教材等】

教科書：美術2・3上下（開隆堂） 副読本：美術資料（秀学社） クロッキー帳 アクリルカラー

【学習計画】

学期	題材名	学習のねらい（身につけたい力）	準備物
1 学 期	美術を始めるのにあたって（ガイダンス）	・美術でなにを学ぶのかを知る これからの学習内容に関心を持ち、学習の意義や内容、評価について理解する。	教科書 クロッキー帳 定規 アクリルカラー ワークシート
	鑑賞「ゲルニカ」	・制作過程の変遷などをたどりながら絵画の可能性を考える。作品から受けるイメージをもとにピカソの制作意図について考え表現することの困難さとそこから生まれる感動について知る。 ・画家と作品を関連させて絵画を鑑賞することができる。 ・ピカソが作品で表現していることについてほかの人の意見を聞きながら自分の考えを持ち、しっかりと考え、自身の生き方について考えをめぐらすことができる。 ・鑑賞から生まれる創造や主張を知る面白さを知る。	
	自画像 「自分の生きる世界」自分と向き合い、自分の内面を表現する。	・今の自分をみつめ、自分を表現するのにふさわしい画面構成を考える。 ・自分が表現したいものに少しでも近づけられるよう、準備し、自ら計画を立てて完成まで制作を進められる。 ・デザイン的な表現技法、色彩構成、など既習の表現方法で自分を主題にして表現することができる。 ・表現するうえで明暗や立体感を考慮して配色することができる。 ・色が与える印象の違いを自身の作品に生かすことができる。	
2 学 期	美術史の学習	・美術の起こり、目的の変化。西洋美術史の時代の大きな流れとその中での特徴的な作品や作家について知る。 ・絵画を見て作者とその時代背景と美術とのつながりを知る。 ・美術作品の自分なりのとらえ方ができる。	サンドペーパー やすり
	堆朱（工芸）	・何重にも塗り重ねられた堆朱の特性を知り、デザインを工夫して削りだす。	

※生徒の様子、学習状況や進度によって、題材の順番の変更や改変をすることもあります。

【評価の観点と評価の方法】（通知表のつけ方）

評価の観点	美術への関心・意欲・態度(25%)	発想や構想の能力(25%)	創造的な技能(25%)	鑑賞の能力(25%)
評価の観点の趣旨	表現することに関心を持ち主体的・意欲的に楽しみながら取り組むことができる。制作過程で妥協をしない。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	学んだことを生かし、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表現している。美しく丁寧に制作しようとする。	美術作品に親しみ鑑賞することができる。一方向からだけの見方ではなく、ほかの人の意見や見方を参考にしながら多角的に作品を鑑賞し自分なりの考えをまとめることができる。
評価の方法	・毎時間の授業の様子（制作に取り組む姿勢）（準備物、片付け含む） 作品、プリントなどの記入内容や授業の様子	毎毎時間の授業の様子 ・授業中の活動の中での構想や取り組む様子。 作品、下図、プリントなど提出物含む	・毎時間の活動の様子 ・作品への手の入り。 ・用具を正しく丁寧に使う 用具を工夫して使う ・素材の特徴を生かす ・意図に応じた表現法	・授業中の活動の様子 ・鑑賞プリントの内容

【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

- 1 集中して授業に取り組みましょう。
 - ・1時間1時間を大切にし、授業時間を有効に使いましょう。もしも、時間が間に合わない場合などは家庭学習で補うことも必要になります。（構想・発想段階・準備段階）しかし、作品の制作についての家庭での補習は認められません。欠席などで遅れている場合には申し出ると補習は可能です。
- 2 題材ごとに、何を大切にしないか理解し、完成予想をしっかりとイメージし制作していくことが大切です。
- 3 考え、決定し、表現する課程の中で完成させる喜びを味わうために各段階での努力を惜しまない。
- 4 必要な資料を準備して授業に臨み、用具などを大切に扱い、管理もきちんとするよう習慣づけよう。
- 5 できあがった作品は大切にしよう。作品はその人自身であると思って他人の作品も大切にしよう。

【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

日常生活で、普段なにげなく見ているものの中に、形や色の美しさ・面白さを発見し感じるようになれば、美術への興味が一層深まります。又、自分から進んで美術の本や写真を見たり、時には美術展などに足を運んでみるのも良いでしょう。たくさん本を読んでいろいろなことを想像できるやわらかい感性を育てよう。世の中にあるものすべてが美術の授業では役に立ちます。新聞を読んだり、ニュースを見たりというのは考えたり表現したりするうえでの助けになります。好奇心をもっていろいろなことに挑戦することが大切です。

